



鵜鮎つうしん

岐阜ダルクニュースレター平成28年春号(55号)

出会いと別れ



施設長 遠山香

けんさんから、「膀胱癌になったから手術を受ける」と言われたのが昨年の7月末のことだった。8月に入ってすぐに手術を受けてほっとしたと思いきや、精密検査の結果、すい臓癌が発覚した。

泣きたいのはけんさんだったかもしれないが、本人を目の前にして思わず泣き出してしまった。けんさんは「俺を勝手に殺すな」と言って笑った。

9月に入って抗がん剤治療のために入退院を繰り返し、最新の治療法だという免疫療法も加わった。治療の合間にダルクに来たときには、いつものように仕事の近況報告や相談にのってもらった。変わらない笑顔で「俺はまだまだこれからだ」と力強く言っていた。体調はどうかと毎日電話をした。

1月に入って、風邪をひいたことから入院となったが、幸いダルクから20分程の所にある病院に入院したので、それからはスタッフや仲間達と代わる代わる毎日病院に通った。どんどん体調が悪くなっていったが、それでも口に出す言葉は「これからだ」と笑いながら言い続けた。

病院に行くと「仕事はどうだ。何か困ったことはないか？」と聞かれ、話が終わると「早く仕事に行け」と病院を追い出されるので、相談することをいろいろと作り出しては通った。

けんさんと出会って16年、ダルクで共に働くようになり「ミーティングに行け」「運動しろ」「勝手にしたら」「泣け」「いつでもやめていい。お前の代わりはだれでもいる」など叱咤激励された11年の歳月。

2月に入って、吐血してから話をするのもままならなくなった時、「私はこれからどうすればいい」と尋ねると「いろいろ出来るようになったから大丈夫だ」と言ってもらった。けんさんが亡くなる日まで傍らにいられたことは本当に幸せなことだった。

子供のように無邪気な心を持っている尊敬している先行く仲間だった。私が薬物依存症からの回復と成長をし続けることができたのは、この人の生き方に影響され続けたことがとても大きい。

今はもう姿はなくなってしまったけれど、なぜかすぐそばにいてくれるような気がしてならない。

「ミーティングに行って正直な話をしろ」とけんさんに言われてきた声が聞こえてならない。けんさんからもらったメッセージを伝え続けていきたい。

ダルクとの出会いと体験

のん

私は14才の時に先輩に勧められてガスを吸い始めました。吸い始めた頃は「かっこいい」「なめられたくない」そんな理由でした。でも15才の時には「寂しい」「構ってほしい」という理由に変わっていました。初めは親にバレないようにしていたのですが理由が変わってからはワザとバレるようにしていました。やっとな親が気づいてくれて理由を聞かれたので「寂しかった」と言いました。言うてからは親も構ってくれるようになりガスがとまりました。

ですが24才になったある日、再使用しました。きっかけは彼でした。彼とは同棲をしていました。彼はある理由から中々仕事が見つからず金銭面の負担は全て私でした。

私は彼の事が本当に大好きだったので彼の分の支払いも全て私がしていました。2人分の支払いをするために私だけが働く生活が半年続きました。

その生活ではストレスが溜まり精神的におかしくなり精神科に行きました。

重度のうつ病でした。処方薬を飲み「これで大丈夫」そう思いました。しかし量は増えて仕事も行けずひきこもりました。現実逃避をするようになりガスを吸いだしました。毎日吸いました。

ある日自動車事故を起こしました。車が無くなりタクシーで買いに行くようになりました。気付いたら留置所の中に居ました。無賃乗車での逮捕でした。

それをきっかけにダルクにつながりました。初めは何も信用できませんでしたが2ヵ月経った今は少しですがプログラムや仲間の事を信じられる自分になりました。

ミーティングで自分の話をするようになり仲間には自分の素直な気持ちを伝えられています。今までの事や先の事は考えず今日1日を仲間と一緒に楽しく過ごしています。



ちさこ

前回鶴鯛つうしんを書かせていただいたから1年経ちました。あれから365日休まずリハビリを続けています。薬が止まって1年が経ち、NAミーティングでお祝いをしました。自分で買って来たケーキにろうそくを1本立てました。仲間たちがハッピーバースデーの歌を歌ってくれました。

25歳で覚せい剤を初めて使いました。それから1年半前の44歳まで薬は止まりませんでした。「人間やめますか？それとも覚せい剤やめますか？」なんて言葉をどこかで見たことがありました。そこには注射器の写真もあったと思います。

覚せい剤、注射器、うでにあと、ひどい顔、ヨレヨレになる、イメージはひどいものでした。でも私が教えてもらった覚せい剤は、スプーンの上に結晶をのせ下からライターであぶって煙を吸い込む方法でした。怖さはなくすぐにはまりました。いろいろなことがマヒしていきました。薬を使っていたら、あつという間に10年経っていました。両親に連れられてダルクに行きました。今は女性ハウスに住んでいます。問題はたくさんありました。薬のこと、食べ物のこと、人間関係のこと、同じ病気の仲間と治療中(リハビリ中)です。

1日3回のミーティングをします。今まで誰にも言えなかった自分の話をします。仲間の経験を聞きまします。同じような経験をしてきた仲間と相談できる環境です。毎日同じ時間に起きて、ごはんを食べて、歩いて施設まで行きます。お昼の運動プログラムでは、走って体力づくりをしています。規則正しい食事と人との関わり方の練習を、仲間の中でしています。

17年以上止まらなかった薬が、1年以上止まっています。続けてゆきます。



ケンさんごころうさま

理事長 由井 滋

外山憲治さんとの出会いは、私が美濃加茂教会に居た12年前だった。岐阜ダルク代表の遠山香さんと一緒に訪問してくれた。名古屋から移住して数年で、美濃加茂教会は福井県、石川県、富山県、長野県に接する広範囲な山岳地帯を責任範囲とする教会で、まだ知人も少なかった。そんな私に外山さんは、岐阜ダルクの後援会長になるよう要請された。即座に断ったが、2人の意思は固かった。

遠山さんは、岐阜県にダルクがないので仕事の後毎日名古屋のNAに通っていたが、岐阜県地域の薬物依存者のために施設を設立したいとの強い望みを持っていた。最後に「これはハイパーパワー(神様)のみ旨だから引き受けて下さい。」と言われ、断ることができなかった。

岐阜駅近くに家を借り、教会、病院などを廻り、資金援助と回復のメッセージを運び1年経った時、全国からの仲間が応援にかけつけ素晴らしい1周年フォーラムが開かれ感動した。その影には外山さんの厳しい指導と励まし、長年の経験が生かされていることを強く感じた。

地道な努力が岐阜県内に認められNPO法人を取得し、強力な後援会を得て、女性ハウスも設立し、今年は自立訓練の事業も始まる。スタッフも1人から2人、そしてまた数人が増え、より充実した活動ができるようになった。

ここまで岐阜ダルクが成長した裏には、外山さんのハイパーパワー(神様)への信仰と生涯をかけた使命感があつてのことでしょう。

死を迎える数週間前訪れた時、憲治さんは生き続けてダルクのために働く決意を示しました。この決意は後に続く人達によって受け継がれると確信しています。

どうか神様の御計らいで、残された家族とダルクを見守って下さいませように。



けんさんの思い出

女性ハウス責任者 勇陽子

宮崎ダルクに入寮していた時、当時施設長のこうさんが、けんさんの話をよくしていました。聞けば聞くほど、私の頭の中で勝手に理想の先行く仲間をイメージしていました。

けんさんは時々、宮崎に来て仲間とミーティングをし、ご飯と一緒に食べたりしました。みんなでプログラムの話をしていた時、「何があっても這い上がってこない、なかなか回復はむずかしい」と言っていました。私はその言葉を時々思い出しながら、入寮生活を送りました。

クリーンが6年の頃、トルコのNAコンベンションへ連れて行ってもらい、そこでけんさんと日本の仲間と数日間過ごしました。トルコの町を散歩していたら、けんさんが「おまえは、いたたまれないだろう」と言われ、私はその言葉の意味も解らず「はい」と言ったら、「ステップ4をやりなさい」と言われました。それから、私はステップ4をなんとか書き終え、ステップ4を聞いてもらう人(今のスポンサー)をけんさんに紹介してもらい、ステップ5を終える事が出来ました。

3年前に岐阜ダルクのスタッフとして、私は岐阜に来ました。仕事が辛くなると「いつでも荷物をまとめて熊本に帰ってもいいぞ」と笑いながら言われ、私は内心ムカッとしながら仕事をしました。帰っていいぞと言われるとそうしたくありませんでした。このようにけんさんと一緒に職場で働くことができ、とても幸せなことでした。

十数年前はけんさんという人を勝手にイメージしていましたが、一緒に働くうちに一人の薬物依存症の仲間、今日一日けんさんもベストを尽くしているのと知りました。ソフトボールしていれば、足がもつれて転んで「痛い」と言って笑っていたし、たこ焼き食べたら熱すぎてびっくりして涙目になって食べていたし、ガンになったことを話していた時、目が赤くなって涙がたまっていたし、そういう姿を見てホッとしました。

けんさんのガンが進行して、ミーティングに行けなくなりました。けんさんは、「ミーティングに行けないからテーマを教えてください」と言ったので、私は毎日テーマを伝えました。

ミーティングの場にいるハイパーパワーに向かって話す事、今日一日ベストを尽くす事などけんさんから伝えられたことを、これから出会う仲間伝えていきたいです。けんさん、ありがとう。



「悲しみを超えて」

後援会 会長 齋藤幸二



療養生活を続けていたケンさん（外山憲治氏）が、逝去されました。ケンさんは強い使命感と個性で名古屋ダルク、岐阜ダルクなどを設立し、たくさんの仲間をサポートし続けて来られました。病気になってからも、体調が許す限り、皆をサポートし続けてくれました。

今まで岐阜ダルクを支えていたケンさんがいなくなって、特に今のスタッフはとても寂しい気持ちでいると思います。しかしケンさんがいなくなってもケンさんのすべてが消えてしまったわけではありません。ケンさんが語った一つ一つの言葉、その生き方、仲間に注がれた愛情はスタッフや仲間の心に生き続けると思います。

幸いタローさん（山田興久氏）という新たな男性スタッフが与えられています。スタッフたちはケンさんと同じである必要はないと思います。それぞれに与えられているものがきっとあるはずですから、それぞれの個性を通して、ケンさんの残したものを生かして欲しいと思います。



Step houseをオープンできました!

スタッフ 山田 興久(タロー)



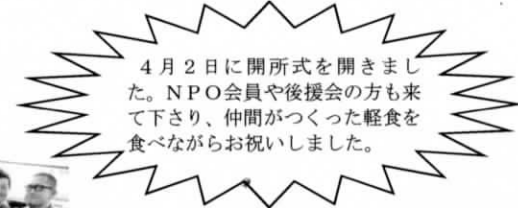
法律に基づく障害福祉サービスの準備をしてきましたが、Step house と言う事業名で4月からスタートすることができました。僕もスタッフとして再スタートでき、身の引き締まる思いの毎日です。仲間を真剣にサポートしていきますので、よろしくお願いします。

Step houseで行う事業は、「自立訓練(生活訓練)」と言い、依存症等によって自立して生活することに困難のある人の生活能力の維持・向上等のために必要な支援等を行うものです。しかし、全く新しいことを始めた訳ではありません。これまでの岐阜ダルクのプログラムを、もっと計画的に、そして一人ひとりの状態をきちんと把握して行うように公的な制度の仕組みに従って改善するものです。つながった仲間が順調に回復していけるように、これまで以上に確実にサポートしていきたいと考えています。

また、岐阜市の指定を受けた事業として、プログラムを行った仲間の人数に応じて公的なお金を得られるようになりますから、岐阜ダルクの経済的な基盤も強化できるはずですが、

しかし、行った事業の実績に応じてお金が得られるために、障害福祉サービスの事業者では、利用者を増やそうとしてその自立を先延ばしして困り込んでもあるようです。仲間ができるだけ早く自立して社会で笑顔で暮らせるようになることが私たちの目的であって、そんなことは絶対あってはなりません。これまで通り皆様にご支援をお願いしながら、公的なお金に頼らずに続けていくことが大切だと考えています。

大家さんと話をするなかで、これまでの施設は男性の入寮施設と相談対応の場として、事業所は別のビルの1室を新しく借りて開くことにしました。大家さんも本当に協力してくださり、そこに皆様からいただいた献金で必要な工事をし、仲間が過ごすための設備を整えました。多くの方々の支えがあつて仲間たちの回復の新しい拠点ができましたことに、心から感謝しています。本当にありがとうございます。そして、新しい一歩を踏み出した岐阜ダルクを、これからもよろしくお願いします。



ご支援・ご協力をいただき心から御礼申し上げます

献金者名(1月1日～2月29日)(敬称略)

カトリック布池教会ともしびグループ 羽島市地域包括支援センター会場来場者 熊谷時江 下林
聡 成井尋江 千田知栄 清水宗夫 今川キメ子 永嶋恵美 池田時造 カトリック江南教会 光
楽英生 遠藤兵庫 木下容子 大竹幸子 福安一幸 中西東峯 河合潔 北谷雅春 山本法律事務
所・弁護士・山本亮 小田泉 齋藤栄子 伊藤直美 堀尾佳広 平澤忠雄 山田慶子 公益財団法人
・名古屋YWCA 慈恵中央病院・熊谷仁実 弁護士・伊藤知恵子 山県地区更生保護女性会・
代表・大橋俊子 田口大輔 勇昭代 聖泉キリスト教会 松岡毅明 大垣保護区保護司会 青木立
子 カトリック津島教会 加藤洋子 伊藤和子 中堀義広 カトリック岡崎教会 (宗)カトリック
神言修道会・多治見教会 中島奈代 若岡ます美 岐阜キリスト教会 浄土真宗本願寺派光専寺・楠
洋子 伊藤公一 恵那保護区保護司会・会長・西山さか江 林顕秀 鷺見直之 久保田和子 サツ
タヒロユキ 川上美里 宮原節子 鎌田憲子 匿名者多数

献品者名(敬称略)

小西和子、青井初恵

※お名前記載につきましては注意を払っておりますが、万が一お名前の誤字・脱字または記載漏れなどござ
いましたら、誠に申し訳ありませんが、ダルクまでご連絡をいただけますようお願い申し上げます。

※発送作業簡略化のため皆様全員に振込用紙を同封させていただいておりますことをご了承下さい。また匿名
希望の方は、恐れいたしますがその旨を振り込み用紙通信欄にその都度ご記入下さいますようお願い致します。

※就労支援のため、パソコンを寄贈してくださる方はいらっしゃいませんか。また、Word・Excelの操作を指
導してくださるボランティアの方を募集しています。どうかお力添えください。

※岐阜ダルクでは岐阜ダルク及び女性ハウスの2施設の地代家賃、水道光熱費、専任スタッフの人件費等、毎
月一定の固定費がかかる一方、「中間施設」の性格上、きわめて財務基盤が不安定で、皆様方のご寄付が欠
かせません。引き続きご理解とお力添えをお願い申し上げます。

※岐阜ダルク 郵便振替口座 00840-5-167752 岐阜ダルク後援会

・バザーや地域のフリーマーケットへの参加を定期的に行っていきます。

ご家庭で眠っている新品のタオルや家庭用品や衣類などがありましたら献品のご協力をお願いしあげま
す。たくさんありましたらダルクから近郊の方でしたら取りに伺わせていただきますのでご連絡下さい。

(058-251-6922)

編集 特定非営利活動法人 岐阜ダルク
編集担当 岐阜ダルク後援会 齋藤幸二 鈴木輝一郎
〒500-8175 岐阜市長住町7-3 TEL/FAX: 058-251-6922
Email: gifudarc2004@yahoo.co.jp
ホームページ: <http://gifu-darc.sakura.ne.jp/>
ダルク日記『今日もぐるぐる』: <http://darcblog.sblo.jp/>
2015年 岐阜ダルクニュースレター平成28年春号 (No.55)
定価 1部 200円
編集責任者 遠山 香
発行所 東海身体障害者団体定期刊行物協会
名古屋市中区丸の内3-6-43 みこころセンター